

心がかたちになりました。

第24回

ナイスハートバザール

in
鹿児島

鹿児島県授産施設協議会



第24回「ナイスハートバザール in 鹿児島」が2月17日(金)～2月21日(火)の5日間にわたり、鹿児島市の山形屋デパート一号館六階大催場と二号館入口イベント広場にて開催されました。このバザールは、ハンディを持つ障がい者と社会を結ぶ「大切な場所」として各方面の多くの方々によって支えられ年1回行われています。今年は、県内24施設が参加し約五百品目の製品を、一万点以上準備しました。農産物や加工食品、縫製、工芸品(陶器・木工品)等がところ狭しと並べられた店内では、連日リピーターを含む沢山のお客様が訪れバラエティに富んだ品揃えを楽しんでおられ、毎年人気のスウィーツ洋菓子コーナーも終日盛況でした。

売り場においては、施設利用者も直接販売にあたっていている所もあり、大きな声でお客様に製品のアピールを行っていました。自分の携わった製品が売れる事が何よりもうれしいと忙しく働く姿は、それぞれの製品に対する自信に溢れていました。

また、今回は東日本大震災の被災地支援活動を企画し、東北3県(岩手県・宮城県・福島県)の授産製品販売支援にも取り組みました。この活動は、単に義援金として販売益金を送る事が目的ではなく、製品が売れることにより需要が生まれることを図り、経済の循環を促すことで東北において障がいを持った利用者の働く環境づくりの創出と被災地の継続支援に繋げていく事が目的です。

バザール期間中、六階大催場の東北支援売り場には岩手県から障がい者就労支援振興センターの阿部順一さんが販売応援に駆け付け、積極的に東北の製品を売り込み、訪れたお客様に対し丁寧に一つ一つ説明していました。阿部さんには、地元メディアからの取材申し込みも多く寄せられ、新聞各紙や地元テレビの「ナイスハートバザール in 鹿児島」の告知報道でも大きく取り上げられました。

来年は節目の25回目を迎えます。ナイスハートバザールの更なる飛躍の年になるよう関係者一同、真摯に取り組みたいと考えます。



▲岩手の阿部氏



▲左からカンパジ 福幸だるま・海図バッグ



東日本大震災被災地展と支援販売コーナー

